

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、\*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連 (東北)		一般小売店〔書籍〕（経営者）	・販売量の推移は横ばいであるものの、単価の動きが良くなってきているため、引き続き業績の維持はできる見込みである。
		その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ファッション関係に復調の兆しがみえている。また、改装による増床効果も期待している。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・株価が現在の状態で安定すれば、富裕層の客が街に出て消費や飲食をする機会が増えるのではないかと期待している。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・年末に向けて少しは良くなるとみているものの、現状をみると今後の見通しは不透明である。
		百貨店（営業担当）	・消費増の引上げを来年10月に控えて、消費税率8%での冬物商戦は今期が最後となるため、駆け込み需要による消費の増加が見込まれる。
		スーパー（店長）	・前年は競合店の出店があり、売上がその年の前年を上回ることができなかった。今年は若干ではあるが月を追うごとに売上が回復してきている。この先も同様に良くなっていくとみている。
		コンビニ（エリア担当）	・今後も更なる統合効果が発揮される見込みである。
		衣料品専門店（店長）	・必要なものだけを購入するという消費動向は大きく変わらないが、気に入ったものを購入したい、じっくりと考えて買いたいという客層は増えている。そのため、来客数がそれなりでも単価が上がっていくとみている。
		家電量販店（店長）	・ガソリン価格の高値などの懸念材料はあるものの、買換え需要において良い商品を選ぶなど、客の購買意欲は高いとみている。4Kテレビの販売、冷蔵庫などの大型化など、家電業界は前年と比較して少しずつ上向いている印象を受ける。
		家電量販店（従業員）	・10月から4K放送用のチューナーが各社から発売になる。当然話題になり盛り上がりるとみているため、需要の伸びを期待している。
		その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（営業担当）	・年末にかけて、防寒着やウォームピズ関係の動きが活発になる見込みである。早く寒くなれば需要が早まる可能もあるため、天候にも期待したい。
		一般レストラン（経営者）	・2～3か月先も現在の良い状況が続くとみている。
		一般レストラン（経営者）	・レストランにとっては秋～冬はシーズンであり、団体の予約が入り始めている。今よりは来客数も良くなるため、久しぶりに期待をしている。
		一般レストラン（経営者）	・早めの忘年会が定番化しており、年末に限らず11月に入るとそれなりに予約が増えていくため、現状よりは良くなる見込みである。
		タクシー運転手	・以前と違って、乗車人数の動きや客の会話のムードが非常に良くなっている。そのため、今後の景気の上向きと消費行動の改善を期待している。
		通信会社（営業担当）	・今年度中に新たな設備投資をしてサービスエリアを拡張するため、年内にも新規加入者の獲得が期待できる。また、12月のBS4K、8K放送開始による上乗せや、テレビ、ネット、電話のトリプル加入も見込まれる。
		住宅販売会社（経営者）	・一次取得者が多いため、不動産からの購入が増えている。
	商店街（代表者）	・天候急変などの悪影響さえなければ、それほど悪くはないとみている。ただし、駅周辺の小売商業施設の充実については、徐々に影響が現れると危惧している。	
	商店街（代表者）	・秋物商材、特にレディース物の動きが鈍い。ただし、メンズ物の専門店では動きが前年よりも早く単価も上がっているように見受けられるため、今後期待している。	
	商店街（代表者）	・年末に向かう時期であるが、季節感が余り感じられなくなっている。	
	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今年は前年と比べても特別なイベントがあるわけではないため、このまま横ばいで推移するとみている。ただし、来客数が減少している分、多少苦戦するかもしれない。	
	一般小売店〔寝具〕（経営者）	・暑い夏が終わり秋冬物商戦となるが、果たしてどれだけの売上となるか見通しがつかない。メインであるふとん仕立てが苦戦しているため、利幅のある商品をいかに客におすすめするかが今後の課題である。	

百貨店（売場主任）	・インバウンドが少しずつ増えてきている様子はあるが、地方経済における大きなプラス要因は見当たらない。品ぞろえや価格帯の下方シフトなど、消費者ニーズへの対応が更に必要である。
百貨店（企画担当）	・取引先や客からは、景気は良くも悪くもないという話を多く聞いている。
百貨店（営業担当）	・大きな変動要因はないものの、前年を上回るためには新しい様々な施策が必須となる。
百貨店（買付担当）	・来店に影響するほどの天候や気温の日が少なかったにもかかわらず、シニア層の来客数が減少した原因について検証が必要である。現時点において先行きの景気の動きは不透明である。
百貨店（経営者）	・百貨店のシェアの多くを占める衣料品であるが、消費者の洋服に掛ける支出低下傾向は今後も続きそうである。さらに、販売チャネルの多様化により、客の流出が少しずつ数字に現れ始めている。そのマイナス分を年末に向けた高額商材の販売でカバーしていく構図となっている。
スーパー（経営者）	・前月までの様々な自然災害の影響のほか、原油価格の高騰による各方面への影響を懸念している。石油製品、輸送費、電気料金、原材料価格の上昇が商品価格に転嫁され、消費者の購買意欲に水を差すのではないかとみている。ただし、しばらくは消費の傾向に変化はないとみている。
スーパー（店長）	・客の買物の仕方は相変わらず節約傾向がうかがえる。ガソリン価格の高騰もあり、この傾向はまだ続くともみている。
スーパー（店長）	・スーパーの新規出店は落ち着いているが、ドラッグストアの出店が多く、その影響で平日の来客数が減少している。前年を上回るような来客数の確保が困難な状況にあり、良い兆しはみえていない。
スーパー（副店長）	・景気は決して悪くはないが、消費者には必要なものしか買わないという節約志向が根強く残っている。
コンビニ（経営者）	・値上げの反動によりたばこの需要は落ちるが、他の堅調な項目分で相殺されるため、数字的には余り変わらないとみている。そのため、景気は依然として堅調に推移するとみている。
コンビニ（経営者）	・今年に入ってから来客数の減少幅は落ち着いてきているものの、上向き要素は余り見当たらない。このまま横ばいの状態が続くのではないかとみている。
コンビニ（店長）	・消費者の消費行動に変化はないが、政府が行っている値上げや最低時給の上昇は、経営に大きな影を落としている。実際、最低時給がコンビニの時給とイコールになっており、対応が追い付かない状況である。大変なことになってきていると実感している。
衣料品専門店（経営者）	・優良客の購買が一段落して一般客に移行したときに、不安定な要素が多い。
衣料品専門店（経営者）	・県内では台風の被害が少ないため、このまま稲刈りができれば農家の所得も増加し、消費の拡大に期待できる。
衣料品専門店（経営者）	・これからは防寒着などの単価の高い商材が動く季節になるが、灯油などの価格も上がっているため、消費者は買物を控えるようになるのではないかと不安である。
衣料品専門店（店長）	・ブライダルなどの目的買い商品に対する需要は例年並みである。気温が例年並みに落ち着いてくれば、ふだん着のニーズも上がるとみている。
衣料品専門店（総務担当）	・地方経済に回復の兆しはみられていないため、数値が前年を下回る状態が続くとみている。
家電量販店（店長）	・農業中心の地域のため、台風などにより購買意欲が減少している様子がうかがえる。
乗用車販売店（経営者）	・12月にかけて受注量の減少が見込まれるものの、販売拡大に向けての準備をしていることもあり、全体的な動きは変わらないとみている。
乗用車販売店（従業員）	・法人向けの販売量は伸びているが、個人向けが伸びていない。
乗用車販売店（従業員）	・ここ数か月、客の動きに全く変化がなく良くも悪くもなっていない。この先の数か月で状況が変わるとは考えにくい。
自動車部品販売店（経営者）	・例年であれば10月は良い月となるのだが、今のところ売上につながる良い判断材料が見当たらない。
住関連専門店（経営者）	・受注生産であるため、現在受注したものを生産してから納品する形となる。現在の受注量はそれほど多くはないため、横ばいの状態が続くとみている。
住関連専門店（経営者）	・小さな店では売上につながるような企画がなかなかできないため、このまま現状維持で推移していくとみている。

住関連専門店（経営者）	・景気はこれ以上悪くなることはないともみているが、良くなることも考えにくい。
その他専門店〔靴〕（従業員）	・ガソリンや灯油の値段が上昇しているため、今後も節約志向が続くとみている。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・高齢化により暖房設備が電気へとシフトしていく流れが続いている。この先に大きな需要の伸びは見込めないが、寒さの状態によっては販売量が大きく変動する可能性がある。
その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・原油コストが下がるような要因がなく、高値のままであれば、現在の状況が続くとみている。
高級レストラン（支配人）	・ほぼ前年と変わりなく推移している。この状態は今後も続くともみている。
一般レストラン（経営者）	・東北の秋は芋煮会などがあるが、二次会は前年よりも少ない様子である。また、夜の町の動きも良くない。
一般レストラン（経営者）	・自然災害による影響がどこまで続くのか分からないが、余り景気が良くなるような要素は見当たらない。今後また自然災害などにより外出を控えてしまうのではないかとみている。
観光型ホテル（経営者）	・観光シーズンである秋口や忘年会の予約状況をみると、前年よりやや悪い推移となっている。
観光型ホテル（スタッフ）	・11月には大型団体の受注があるものの、それ以降は不透明である。
観光型旅館（経営者）	・相変わらず消費の動きはめりはりが強く、若干の引締め感もあるが、先行きに余り変化はないともみている。
都市型ホテル（スタッフ）	・この先大きなイベントの予定もなく、スポーツ関係も前年と比較して非常に少ない。
都市型ホテル（スタッフ）	・天候に左右されることもあるだろうが、前年並みは維持できるとみている。
旅行代理店（経営者）	・北海道胆振東部地震の影響で、9～10月という北海道の一番良い時期の販売量が落ち込んでいる。この影響がどこまで今後に響いてくるか心配である。また、個人需要についても、目的はあくまで北海道であるため、代わりに他の地域に行くということはなく、取消しとなってしまう。このような不安定な状態はしばらく続くともみている。
旅行代理店（店長）	・行楽シーズンにもかかわらず団体旅行、個人旅行の予約数が伸びていない。台風や北海道胆振東部地震の影響が払拭できず、旅行マインドは冷え込んでいる様子である。
旅行代理店（店長）	・景気が良くなる要素が見当たらない。年末のボーナス商戦に期待したい。
通信会社（営業担当）	・政府の景気対策の施策が見当たらないため、景気は横ばいで推移するとみている。
通信会社（営業担当）	・景気を左右するような大きな要因が見当たらない。
テーマパーク（職員）	・高単価商材を購入する客が少ないため、購入単価が上昇しない状態は今後も続くともみている。
遊園地（経営者）	・ガソリン価格などの物価動向や経済状態が心配であるが、複数のイベントの開催で前年並みを維持する見込みである。
競艇場（職員）	・7～10月にかけて多くのイベントがあるため来場促進策を強化しているが、現状がここ最近で一番良い状態であるため、これ以上の向上は厳しい。この先は現状維持が精一杯であり、景気は変わらないともみている。
美容室（経営者）	・今年に入ってから、来客数の前年比95～97%の状態が続いているため、この流れはしばらく続くともみている。
美容室（経営者）	・同業者からも、以前と違い客の財布のひもが固くなっており、美容室に余り金をかけなくなっているという話を聞いている。
その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・原油価格の高騰による燃料や石油製品の価格上昇が懸念材料である。
その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・リフォームについて、問合せの受付件数は前月より増えたものの、前年実績よりは減っている。
商店街（代表者）	・3か月連続で商店街の来街者数が前年を下回っている。年末商戦に向けてプレミアム付商品券の発売や年末抽選会などを予定しているが、消費者の購買意欲向上にはなかなか結び付いていない。
スーパー（営業担当）	・競合店の出店に歯止めが掛からない。9月以降もエリア内に競合店出店が予定されており、今後も来客数及び売上の減少が見込まれている。
スーパー（営業担当）	・原油高の影響により食品を含む商品が値上がりする可能性がある。また、北海道胆振東部地震に伴い野菜不足が発生しており、こちらの値上がりも懸念している。さらに、家計の負担増による買い控えの傾向もみられている。
コンビニ（経営者）	・今のところ状況が変化する要因が見当たらない。

	コンビニ（エリア担当）	・たばこ増税の反動により、10月以降は来客数の減少が見込まれる。
	コンビニ（エリア担当）	・消費の低迷化が始まってきているのか、来客数の動きが鈍い。この傾向は今後も続くともみている。
	コンビニ（店長）	・気温に比例して来客数も減少するため、これからは徐々に厳しい季節になっていく。さらに、人手不足も加速しており店を維持するのが難しくなっている。
	乗用車販売店（経営者）	・消費税の引上げによる消費の減退を懸念している。
	乗用車販売店（本部）	・しばらく好調であった中古車がじりじりと販売台数を落とし始めている。一方、新車部門でも新型効果が一巡しており、来客数、実績共に減少し始めている。そのため、サービス売上で何とかカバーを図っていく予定である。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・状況が変わらなければ、景気はやや悪い方向に進むのではないかと懸念している。酒のような嗜好品は一般家庭で消費する分も控えられている可能性がある。徐々にではあるが、金をかける対象から外れつつあるのかもしれない。
	その他専門店〔食品〕（経営者）	・この先も台風が多く、また、原油高で燃料費が高騰する見込みのため、消費者は食品も節約してしまうとみている。
	高級レストラン（経営者）	・余り景気が良くなる要素がない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・法人の利用数が少なく、来月の予約状況も芳しくない。
	旅行代理店（従業員）	・異業種の参入により、競争が激化している。この先は従来型のビジネスモデルからの変革が急務である。
	通信会社（営業担当）	・貿易摩擦の影響でここ2～3か月は下降気味であり、日本銀行による手だてもない状況である。スポーツビジネスで多少上向きになる可能性もあるが、全体的にはやや悪くなるとみている。
	通信会社（営業担当）	・燃料費が上がってきている。地方では特に影響が強いのではないかと懸念している。
	観光名所（職員）	・気温が下がるため、寒さ慣れするまでは出控えが増えるともみている。
	設計事務所（経営者）	・同業者間の競争激化による受注価格の低価格化及び大手企業の進出など、現在の状況は今後も続くともみている。
	× 商店街（代表者）	・天候不順が精神的にダメージを与えており、消費がかなり下がっている。客の中にも廃業の話などが出てきているため、先行きはかなり悪くなるとみている。
	× 一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・地元の震災復興需要の終息に加え、人口減少、更にはガソリン価格を筆頭に諸物価の高騰により消費者の節約意識が高まっている。加えて、郊外に巨大ショッピングセンターがオープンし、市内の人の流れが変わってしまい、中心市街地は閑散としている。また、あらゆるところにネット通販との競争が発生するという構造変化もあるため、経営環境が自然に良くなるとは考えにくい。
	× スーパー（経営者）	・酒のディスカウント店やコンビニの新規出店があり、オーバーストアの状況が更に激化している。
	× 衣料品専門店（店長）	・10月になると近隣に競合店舗がオープンする。ビジネス部門においてかなりの影響を受けるとみている。
企業 動向 関連  (東北)	-	-
	建設業（従業員）	・大型公共工事、大型民間工事の受注者確定時期と重なる可能性が高く、今月と比較して更に若干の景気上昇が見込まれる。
	通信業（営業担当）	・新しいサービスに関心を持つ客が増えているため、期待している。
	広告代理店（経営者）	・東京オリンピックのキャンプ地誘致により、若干の動きがみられている。
	広告代理店（経営者）	・秋口から年末の需要期で、企業活動の活性化が進むことを期待している。
	司法書士	・建て売り住宅が好調に推移している。
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・業界全体は非常に良くないと聞いているが、地域的なものなのか当社はここ数か月商売が上向き傾向にあり、景気が良くなっているように見受けられる。
	その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・気温も下がって本格的な需要期を迎えることで、飲食店も活性化すると見込んでいる。
	農林水産業（従業者）	・晩成種の桃は例年同様の品質であり、雨不足はあったものの大きさも例年並みとなっている。そのため、農協からの精算書の販売価格は良くなるとみている。
	食料品製造業（経営者）	・通常の土日の来客数や客単価と比較すると、この先もそれほど変化はないとみている。

	食料品製造業（営業担当）	・既存品、新商品共に売行きが悪く、厳しい現状に変化はないとみている。	
	出版・印刷・同関連産業（経理担当）	・2～3か月先の受注残が、今月と比較して同水準となっているため、景気は横ばいで推移するとみている。	
	金属製品製造業（経営者）	・ある程度の高止まり感が出始めている。	
	電気機械器具製造業（企画担当）	・現在の良い状況はしばらく継続する見通しである。関連客の要求を満たすような製品開発を続けることができれば、見通しは明るいとみている。	
	建設業（企画担当）	・工事受注額は当初の見込みどおりであるため、2～3か月先は現状のままで推移するとみている。	
	通信業（営業担当）	・しばらくは通信に対する厳しい反応が続くとみている。	
	通信業（営業担当）	・日本銀行、政治の施策の影響はない。	
	金融業（営業担当）	・先行きの景気に対する大きな変化要因がない。	
	金融業（広報担当）	・有効求人倍率の高止まりが続いている。また、製造、観光部門は好調を維持しているものの、消費心理を高揚させるには至っていないため、小売関連が伸び悩むとみている。	
	広告業協会（役員）	・この先、年末年始に向けて広告出稿が増える傾向にあるが、新規イベントや新施設オープンなどの話題に乏しく、しばらくは横ばいの状況が続く見込みである。	
	経営コンサルタント	・この先の行楽の秋に期待したい。	
	公認会計士	・小売業などは売上、利益の減少傾向が続く見込みであるが、建設関係はまだ利益確保企業が多く、全体的には好調を維持するとみている。	
	その他企業〔協同組合〕（職員）	・景気が好転するような材料が見当たらないため、しばらくは現状のまま横ばいで推移する見込みである。	
	農林水産業（従業者）	・10月下旬から玄そばの収穫時期となるが、8月初旬に豪雨が続き、生育が悪く、収穫量が減少する見込みである。	
	食料品製造業（経営者）	・原料価格の値上げが見込まれており、コスト上昇により厳しくなるとみている。	
	窯業・土石製品製造業（役員）	・業界の見通しにもよるが、落ち込んでいる出荷量に回復の兆しはみえていない。	
	輸送業（経営者）	・主要荷主の工場が減産すると発表しており、大きな影響が見込まれる。また、燃油費の値上げも通告されているため、先がみえない状況にある。	
	コピーサービス業（従業員）	・仕入れ商品の値上げや、配送コストの上昇などの状況が続いており、取扱商材の見直しや配送システムの変更を検討中である。先行きは明るくない。	
	×	木材木製品製造業（経営者）	・需給バランスの調整にはしばらく時間が掛かる。一方、輸入に頼る原材料のコストも円安の流れから高止まりしており、業界全体がかなり厳しくなる見通しである。
雇用 関連 (東北)		人材派遣会社（社員）	・求人数の増加傾向は続いており、結果的に求職者数も増えている。そのため、成約数の増加が見込まれている。
		人材派遣会社（社員）	・まとまった新規案件に恵まれているものの、9月の契約終了が前年以上になる見込みのため、やや良くなる程度に推移するとみている。
		人材派遣会社（社員）	・地元の企業は、大手も中堅も2020年4月採用に向けたインターンシップの企画、実施を積極的に行っている。このことから、採用意欲が高い状態は長期的に続き、景気がやや良い状態が続くとみている。
		人材派遣会社（社員）	・登録者が不足しており、求人とのミスマッチは今後も続くともみている。
		人材派遣会社（社員）	・採用難の状況は変わらないとみている。
		人材派遣会社（社員）	・年末にかけて、企業や求職者の状況が劇的に変化するとは考えにくい。
		アウトソーシング企業（社員）	・委託は前年同様の動きで推移している。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・与党の総裁選挙後も大きな政治情勢の変動はないため、現状維持が続くのではないが、地元では台湾を中心にインバウンド客が地元空港を経由して東北各地に移動している。商店街にもインバウンド客を見かけるようになってきているため、うまく消費に結び付けることができれば、景気は上向くとみている。
		職業安定所（職員）	・労働力不足の状況に変化はないとみている。
		職業安定所（職員）	・状況に変化はなく、人手不足の状態が続くとみている。
	職業安定所（職員）	・人員整理の情報が少ないことは好材料であるが、9月の求人数は前年同月比で減少となっているため、この先も余り変化はないとみている。	

	職業安定所（職員）	・管内の雇用保険被保険者数をみると増加しているが、小売業や水産加工を含む食料品製造業からの求人が減少傾向にある。求職者は減少しているが、就職者も減少していることから、厳しい状況は変わらないとみている。
	職業安定所（職員）	・新規求人数は前年同月比で7.2%上昇しているが、充足せずに更新する求人が多い。新規求人倍率は前年同月より上昇しているものの、求職者の減少傾向が続いている。状況に大きな変化はなく、今後も横ばいで推移するものとみている。
	学校〔専門学校〕	・中途半端な景況感であり景気の伸びは鈍化している。そのため、今後も景気の動きに変化はないとみている。
	新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・企業の人手不足、ガソリン価格高騰、建設受注の減少が懸念材料である。
x	-	-